

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年通補版Ver.2 (BPV/BEI対象) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCB_2010bpi&bei(v.2.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-------------------------------|--------|------------|
| 建物名称 | 一般財団法人 電力中央研究所 横須賀地区 新研究棟(仮称) | 階数 | 地上5F |
| 建設地 | 横須賀市長坂2-6-1 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 工業専用地域、指定なし | 平均居住人員 | 370 人 |
| 気候区分 | | 年間使用時間 | 8,760 時間/年 |
| 建物用途 | 事務所 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2016年7月 予定 | 評価の実施日 | 2016年5月9日 |
| 敷地面積 | 13,137 m ² | 作成者 | 株式会社日本設計 |
| 建築面積 | 1,808 m ² | 確認日 | 2016年5月11日 |
| 延床面積 | 8,162 m ² | 確認者 | 株式会社日本設計 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 71%

③上記+②以外の 71%

④上記+ 71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.8

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 総合 アメニティに寄与する空間づくりに積極的な投資をすることで、当建物に勤務する研究者のリフレッシュや相互交流を促進を目指している。 | その他 建物躯体における積極的なプレキャスト部材採用やデッキプレートの採用により、南洋材使用量削減や現場作業の簡易化・短縮化を図り、工事過程における環境負荷低減にまで配慮した計画としている。 | |
| Q1 室内環境 高温で塩分を含んだ臨海部に適した外気処理システムを導入して快適な室内空気環境を実現する。また、大空間のオフィスを小さなエリアに区分して温熱環境や照明制御を行うシステムを導入し、オフィス環境のカスタマイズ性を高めている。 | Q2 サービス性能 災害に対する高い安全性を実現する免震構造の採用。臨海部に適したメンテナンス周期の長い高耐久な仕上げ材選定や、メンテナンスがし易くなるための設えを採用している。 | Q3 室外環境(敷地内) 積極的な緑化を行い、建物竣工後は現状よりも緑化率を上げる。空調設備からの熱排気の大部分は屋上に排気し、地表面の熱的環境の向上を図っている。 |
| LR1 エネルギー LED照明、高効率空冷チラー、湧水熱交換による水冷ポンプチラー採用による省エネ化や新省エネ基準による高断熱設計としている。 | LR2 資源・マテリアル 積極的な再生資源材料の採用を行っている。 | LR3 敷地外環境 新省エネ基準による高断熱設計やLowE複層ガラス採用によりペリメーターの熱負荷を減らしている。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される